

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮別所小学校】

⑥ 次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、個人差が大きいことから個別に必要な支援をさらに講じていく必要がある。
思考・判断・表現	根拠となる部分を引用したり、個別の内容を関連付けて思考することに課題がみられたため、教科横断的な視点として、グラフ等の資料を用いる際、「誰が」「どのような視点で」「どのような単位で」などを意図的に問い合わせ、資料や情報の見方を高められるような授業実践をより多くする。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>国語科の「読むこと」・算数科の「データの活用」の正答率が低い傾向が見られた。 <指導上の課題>繰り返し学習を行うなどの学習習慣の定着に差が見られ、その結果知識・技能の定着に差が見られる。	ICTを活用し、児童データを収集・活用し、児童に応じた指導ができるよう指導の見直しを行った。【月1回実施】指導と評価の一體化を図ることにより、個に応じた指導を充実させていく。【市学習状況調査「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか。」において肯定的回答が90%以上】家庭との連携を密にして、学習習慣の定着を図る。【市学習状況調査「家で計画を立てて勉強をしていますか。」の肯定的回答が90%以上】
思考・判断・表現	<学習上の課題>どの学年においても「思考・判断・表現」の正答率が低い傾向が見られた。 <指導上の課題>自己の考えを言葉で表現することに苦手意識をもっている児童が多い。	各教科の授業で、根拠資料を基に、自己の考えをまとめる活動を引き続き行っていく。【市学習状況調査】これまでの授業は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んできましたかにおいて肯定的回答が90%以上。【学級課題修了率】「自身の考えを言葉で表現することができます」として肯定的回答が80%以上。】根拠と結び付けて自分の考えを表現できるようより重点的に指導を行っていく。【市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。」において肯定的回答が90%以上】

⑤ 評価(※) 調査結果 授業改善策の達成状況		
知識・技能	B	学校課題研修を通じて、ICTを活用し、児童データを収集・活用し、児童に応じた指導ができるよう指導の見直しをするための基本的な技能を多くの職員が習得することができた。市学習状況調査「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか。」において肯定的回答が85%。「家で計画を立てて勉強をしていますか。」の肯定的回答が72.5%と目標を下回ったが、多くの肯定的な回答を得ることができた。
思考・判断・表現	A	市学習状況調査「これまでの授業は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」において肯定的回答が91%、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。」において肯定的回答が91%と目標を達成することができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

④ さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語「言葉の特徴や使い方」では、漢字や修飾・被修飾の関係、算数「数と計算」の除法、「図形」の角度、四角形の条件、社会「現代社会の仕組みやはたらきと人々のくらし」においては憲法の理解、理科「エネルギー」において回路、「生命」において植物のからだのつくりや発芽において課題が見られた。どの教科においても基礎的な内容の徹底が重要であると考える。
思考・判断・表現	国語「読む」の具体的に想像する、また描写から読み取ること、算数「データの活用」のグラフの選択や、必要な数量を読みとり立式すること、社会「歴史と人々のくらし」の、文化背景をよみとること、理科「エネルギー」の回路に関する内容や、予想が確かめられた場合に得られる結果をみとおす内容に課題が見られた。読み取った内容や、得られた結果を互いに結び付けて思考する機会をもっと与えることが重要と考える。

② 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)		
知識・技能	算数の「A数と計算」の2数の関係の式変形、「C変化と関係」の速さの公式を扱う問題に課題が見られた。公式は理解しているのだが、その結果求められた解のもつ意味の理解が不十分であった。	
思考・判断・表現	国語の「A話すこと・聞くこと」の問題文やメモを読みとり、工夫や効果を読み取る問題に課題が見られた。問題類型を見ると、メモの内容はおおよそ理解できているのだが、細かな読みとりが不十分、問題文の語句の意味の読みとりが不十分であると考えられる。また、無解答率がやや高く、題意を捉えることができなかつた児童が一定数いるものと考えられる。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	
知識・技能	B	スクールダッシュボードを用い、授業の振り返りを行なうことができた。今後収集されたデータを収集・分析を行い、授業展開や個に応じた指導に生かしていく。また、学習に繰り返し粘り強く姿勢は引き続き課題が見られる。	変更なし
思考・判断・表現	B	校内研修を実施し、授業の流れを確認した。自己の考えをまとめる場面を設定した授業展開を各クラス・各教科で実施している。	複数の条件を基にして、根拠を明らかにしながら自分の言葉で表現できるようにする。また、教員が見取りをしっかりと行う授業を繰り返し行う。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)